

令和5年度 草津市健康づくり推進協議会

開催日時	令和5年7月6日(木)14時から16時	
開催場所	草津市役所 4階 行政委員会室	
委員	出席	13名 朝倉委員、北村委員、廣嶋委員。住吉委員、新木委員、山本委員、井上委員、大脇委員、小泉委員、西川委員、澤谷委員、阿部委員、望月委員
	欠席	7名 井口委員、近藤委員、真田委員、戸崎委員、馬場委員、木村委員、松村委員
関係者の出席	滋賀県南部福祉事務所 山本次長	
傍聴者	なし	

1. あいさつ

【永池健康福祉部長 あいさつ】

【草津市健康づくり推進協議会設置条例第3条第4条に基づき、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第4条に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており、協議会が成立していることを報告】

2. 会長、副会長の選出

【会長に新木委員、副会長に近藤委員を選出】

3. 会議の位置づけ及び計画策定の概要、市民アンケート調査結果の報告

事務局：資料2および資料3に基づき報告

4. 第3次健康くさつ21(案)の策定について

事務局：資料4に基づき説明

委員：会議資料について、可能な人だけでも PDF にしていただく等、メール等で送れないのか、次回以降ぜひ検討お願いいたします。

事務局：次回以降、メールで送るということも可能でございますので、可能な委員の方には、そういった対応ができるよう、工夫をさせていただきたいと思っております。

会長：健康診査や健診等の受診促進の一つとして、受診しやすいように体制を整備することがありますが、受診しない理由が何なのかを考えないといけないと思っています。正規雇用されている方の場合は、きちんと休みがとれるのですが、正規の雇用ではない方や派遣の方等の仕事の方、あるいは中小企業の方の場合だと、休みの日が決まらない、わからない人がいます。細かいことは分かりませんが、日が決められないような方々が結構いらっしゃるということがございます。受診しやす

い体制というのは、すでに取り組んでいると思うのですが、物理的に受診できないような状況が進んできているのではないかと考えています。一定年齢以上の方は休みも決まっていて、比較的受診がきちんとでき、だけど中間層ぐらいの年齢の方々にそのような部分があるのかなと感じます。これは行政のほうで、どうこうできる話ではなくて、国のほうが少なくとも月に1回くらい平日に休みを取れるような状況をなぜ作ってくれないのかと常に思っています。こういう場面だけではないですが、いろいろな病気、糖尿病の重症化予防や、けん診の受診率を上げましょう等、そういった話がどんどん出てくる中で、なぜ受診してくれないのかなとなると、平日に休みを取れないというようなことをおっしゃる方々が結構おられ、ひとつには、比較的若い年代の方の健康に対する優先度が低いというのがあると思います。自分の趣味とか遊びのほうに優先的に時間を取って、健康等に関しての関心が低いので、どうしても優先度が下がるというのはあるかとは思っています。むしろ強制力を持ってこういう活動をしていただけるようなものを作ったらどうだろうということをいつも思っています。月に1回平日に休みを与えることを強制化すると、それは受診でも良いし、健康づくりのため何かを活動するのも良い。有給休暇があっても使いきれてない人たちが多いような状況もあるわけですので、そういうものを作れば強制力があるのにと以前から思っております。この場で言って解決する話ではないと思いますが、私個人的にはそう思っております。

委員：何年前かに美容師の方と話をしたときに、「アフリカの子どもたちは大変ですよ、寄付しないといけないですよ」と聞き、「日本の子どもたちが貧しいですよ」という話をしました。皆が知っているはずのことを遠いことだと思い知らない人がいるのです。少しずつ循環して、皆で助け合う輪を持たないと、企業等に頼りきりでは続かないと思うのです。だから、皆で協力し合うことで、食育等につながっていくだろうし、草津が好きになるとか、感謝の気持ちが生まれるのではないかと思います。長い目で見ると健康くさつにつながるのではないかなと思いました。

事務局：本市では福祉部門の計画として、地域福祉計画等があり、身体や心の健康とあわせて、地域づくりにも取り組んでおり、こうした健康と福祉の両輪の取組を進めています。食育の部分や健康を支え守るための地域のづくりといった観点は非常に重要であり、本市の第6次草津市総合計画の中でも、「絆」や「つながり」という部分を非常に大事にしております。今いただいたご意見も踏まえながら、今後の事業検討にあたっては、「つながり」を意識しながら展開をしてまいりたいと考えます。

会長：情報が偏っているのだらうと思います。クラウドファンディングにしたらえらいお金が集まるとか、そういったものが結構あるわけです。皆がそれを知ったからそこにわっと集まる。だけど、知らないから何も始まらないというところがあるのだらうと思っています。情報網も広く浅くという情報がうまく伝わらなくなっている時代になってきていて、ネットから若い方々が情報を集めてしまうので、自分の興味があるところに深く情報を取りに行き、自分の興味がない情報等は全く知らないと思います。昔だったら、情報はテレビや新聞で情報を得ますので、興味のないようなところでも、情報が目に入ってきていたのですが、今は新聞も読まない人が多いですし、場合によってはテレビも自分の好みのものしか見ず、家族皆でテレビを見るようなこともない、そういう時代になってきていますから、情報の偏りがあるので、そういった方に広く伝わるような何か考えをしていかなければいけ

ないと思いました。

委員:社会環境に応じた計画を作るため、オールマイティな計画ですが、ポイントを重点的にしていくこと必要があると思っております。基本目標の健康寿命の延伸ということで、県内でもトップクラスの健康づくりの市として、頑張っていかなければいけないという思いを持っております。特に、今の社会状態が少子高齢化ということで、団塊の世代の方が75歳以上なり、次の世代の65歳以上の方が75歳になるとき、さらに増える可能性があります。何か特化した計画を入れていかないと、毎年、中間評価をしても数字が上がってこないという思いがあります。20歳以前の高校生にどんなことをやっているのかというのはデータがないですが、高校生や大学生に働きかけることは難しいという実態があると思いますが、健康の意識を高めていかなければいけない、どうやって伝えるのかということが必要という思いを持っております。それから、国全体に食品ロスというのが多く、少なくなるような食育計画を立てていかなければいけないという思いを持っております。それから、人間は気から病気になりやすいというので、相談体制や人との関わり、自らボランティアをするという地域活動を進めることによって、心の豊かさを持つということが健康づくりの一つであります。最後に資料4の「保育所」という記載がありますが、「こども園」が主流になってきていますので、ご検討いただければと思います。

事務局:重点というところですが、年代ごとの取組や課題は変わってくるかと思えます。取組の部分で、ライフコースとして、年代ごとにどのように取組の方が良いのかという見せ方を今後行っていただければと思っております。重点という形になるか分かりませんが、ポイントを絞ってお示しができるように、皆様がみてわかりやすい計画にしていけたらと思っております。「こども園」等の文言等は再度確認をさせていただき、統一していきます。また、課題の2番に上がっていますように、心身の健康のために、余暇や日常生活の中に取り入れるというように、やはり心の健康という部分も大事だと思いますので、こちらを忘れずに、心身共に進めていきたいと思っております。

会長:国の方針もありますし、すり合わせをもって案ができていますが、どこが草津らしいのかということですね。草津らしい健康に関わるものを何か一つ入れていただくと面白いかなと思えます。

今、深刻な問題になっていることとして、例えば市民となると自治会とかそういうところですね。あとは、会社、企業となってくると、みんな転職していく、昔のように終身雇用になっていない。会社で忘年会しましょうとなったら、集まりがない。嫌がられるから、会社の部長とかも忘年会やめておこうか、みたいなそんな時代になってきています。こういった市民全体に広げていく、活動をしていくとなったとき、ではどこに呼び掛けて、どういう団体、どういったところに入っていただくかという点が良いのかということになってくる。なかなか難しい部分になってきます。以前出席した会議のときに自治会長が嘆いておられましたけれども、「なかなか誰もやってくれない。お年寄りばかりで、民生委員やってくれる人も70歳や80歳という年齢の方で、若い人がやってくれない」みたいなお話や、「老人クラブは皆さん入るものですか」と聞きましたら、ある高齢者から、「いや私、そういったものに入りたくない」と言って、なかなか困難になってきているような状況です。学校は皆さん行くものですから、学校においては子どもさんや、その親御さんのつながりがありますが、それもまたPTAも解散していつているという話もございまして、そのあたりも課題かなというふうに考えます。

委員:委員所属の団体の取組を発表させていただきます。健康推進員は、養成講座という研修を受け、市長から委嘱を受けて、市民の健康のために活動をするボランティアです。ライフコースアプローチという言葉、初めて見せていたのですが、それに沿っていると思います。活動は、赤ちゃんと保護者を対象に、離乳食の試食や交流会を行う「離乳食レストラン」というのがあります。また、手作りのエプロンをかけて、ワニさんが出てくる劇をこども園等に訪問して歯科啓発する「エプロンシアター」というものがあります。食事のバランスが一目でわかるように考えられた、赤黄緑の野菜を模した三色の折り紙で、パタパタと折ってめくれるようになっている「三食おりがみ」があります。「フェルトパネル」という、三食のバランスよい食事を保護者の方に啓発することがあります。草津市民歌に合わせて体操をする「はつらつ体操」というものもあります。今後は、健康に関心のない方にいかに振り向いていただくかということが課題の一つになることを思います。

事務局:今後、健康に関心のない方に振り向いていただくことが必要となると思います。どうしても関心のある方にしかなかかなか届かず、健診についても、関心のある方は来られるというようなアプローチの仕方だったのかなと思うと、やっぱり無関心層の方がどうやったら受けていただけるのか、もしくは健康に関して、健康づくりを自然と取り組めるのか、健康格差の縮小にむけてどう取り組むか、そういったあたりの取組が大事になってくるのではと思います。

委員:労働者福祉協議会ですが、我々は草津栗東地区にある各企業の労働組合が集合しまして、構成している組織になります。健康、身体の病気、ケガに関しては、会社で健康診断があったり、定期健康診断があったりして病気が見つかったということをよく聞く話なのですが、従業員のメンタルの不調というのが、非常に今、多いところですよ。我々も非常に不勉強でして、どう接してよいかかわからないというのがよく聞かれるところですよ。休みから出てこられたときにも、どう接して良いか、どこにそういう相談をしていいかわからないというのも、我々も非常に困っているところがあります。例えば、休まれたときに、頻りに声をかけていいものかどうかとか、対面かメールで言ったほうがいいのか、そういうのは全くわからないので、皆手探りの状態でやっているというのが多いというのをよく聞きます。健康寿命ということで書いていただいているのですが、身体の健康というと病気、ケガ以外にも心の健康も重要です。最近メンタル不調を訴えられる方も働き盛りの30代40代という方が非常に多くて、家庭を持っておられる方もそういうことになるというパターンもよくありますので、何か盛り込まれていただくとありがたいなと思います。

会長:今回、この計画の中にあまりメンタル面での健康というところがあまり盛り込まれている感じでもないと思いますが、いかがですか。

事務局:この計画の中では、健康を支え守るための地域の絆における社会づくりのところに「心の健康づくり」という視点も入れさせていただいております。国でも、「心の健康」というのは、身体の部分の健康への影響というのが関連深いと言われている中で、市民の身近なところにおられる方が理解をいただきながら、そっと寄り添っていただく、そういった心のサポーターと言われるような方々を多く作っていくことが必要だということも言われています。草津市は、「自殺対策行動計画」を来年度から新たな計画期間を迎えるということで、策定を今現在進めているところで、計画の

中において、ゲートキーパーという、死にたいほどの心の悩みを抱えておられるような方々の心の不調に気づいて、寄り添いながらも必要な相談機関であったり、窓口であったりにつないでいくというような方を市民の方々の中にも増やしていくことを目指しているところでございます。9月19日に市民の方々向けにゲートキーパーに関しての知識をご理解いただくような研修会を予定させて頂いておりますので、そちらのほうについても市民の皆様にも周知をさせていただきたいと思っております。

会 長:メンタルの不調の方が会社の中に存在するというのも普通になっている時代になっています。昔でしたら、そういう方は逆に珍しいというか、そんな人いるんだね、というような感じであったり、会社に一人二人みたいな時代があったのかもしれませんが、今や一つの部署の中に一人ぐらいのような感じになってきているのではないかと思います。それはそれとして対応していくという形を考えていかなければいけないのかなと思います。普通に元気に仕事されている方がある日、ある時、急にということが、可能性としては十分ある話ですので、他人事ではなく、自分ごととして考えていただかないといけないという部分もそろそろ出てきているのではないかと思います。

5. 第2期草津市国民健康保険保健事業推進計画(案)の策定について

事務局:資料5に基づき説明

委 員:②の特定健診受診者の受診勧奨ですが、これの追加で、SNS やホームページというのを書いてほしいと思っております。実際、たび丸くんのツイッターだとかラインだとかを見せていただいたのですが、フォロワー数もかなり少ないですし、そこで呼びかけをしてもっとフォロワー数を増やしていただいて、生活の知恵や、草津のよいこと等を発信し、また受診勧奨をするとより40代50代の人の受診が増えるのではないかなと思っております。

事務局:社会の動向のところをご覧になっていただけると ICT の活用や実施方法の工夫ということで、できるだけデジタル化を進めていくような形で、国のほうでも方針を示されております。現状、基本は通知勧奨、電話勧奨が中心になっておりますので、ご意見いただいたように、ホームページやSNS を活用して受診勧奨を行っていくことも効果的であるというふうにも考えられますので、また追記のほう検討させていただきたいと思っております。また現在、特定健診のほうのご予約等が、電話等でお受けしているのですが、今後また ICT の活用もありますので、電子申請等の実施を検討しております。こういう形でできるだけデジタル化等進めまして、皆さんが受診しやすい環境を整えていきたいというふうに思っております。また委員のご意見を受けまして、この資料のほうの追記等も検討して行きたいと思っております。

会 長:当日配布の一枚ものの参考資料で国保被保険者の数が、60 歳以上から多くなるのは、これは当然退職されるからという話になるのでしょうか。ただ、実は私の医療させていただいているところの65 歳以上の方というのは、割と健康に関心があるのです。ですので、この年代の方の国保の被保険者のボリュームが多いのですけれども、その方々にどうこうというのは、そこまでいいかなという語弊があるのですが、もうすでに病気で通院されておられたりとか、そういうような方も多いで

す。それよりもっと下の年代ですよ、30代、40代、50代。これぐらいの年代の方がたまたま受診されると、えらい病気ということが結構あるのです。聞いてみると、国民健康保険の方ですから、自営の方であったりとかで、一番最近、健診いつ受けられましたかと聞いたら、5年も10年を受けていませんというような方が、やっぱり結構おられるというような状況があります。やっぱり比較的若い年齢の方々に健診を受けていただくというところですよ。そういうところに重点を置いていかなければいけないのだろうと思います。ですので、今、山本委員から意見が出ましたような形で、もう少し若い年代の方々が受診しやすいとか、きっかけを作りやすいといいますか、そういう状況を作っていただくのが一つではないのかなと思います。特定健診とかは別に大きな病院でしているわけではなくて、各診療所でやっているレベルのものです。各診療所で、ネットで予約をやってくれと言ったら無理な話になってしまうので、それはまた医師会のほうにどういうふうにしてもらったらいいですかということをお願いしたら、正直、私のところは規模が大きいところではありませんから、予約なしでいつ来てもいいですよという形なのです。そういうところも結構あると思いますから、ネットを使って市役所のほうも、どこかの窓口のほうにアプローチが来たら、近くの何処どこ医院さん予約なしでいけますよ、というような感じのお知らせをさせていただくことをすれば、受診につながっていくだろうという部分もあるかなと思いますので、またこのあたりもよろしくお願ひしたいと思います。

委員:なかなかちょっとずつしか効果がでず、もっと分析しないとという思いがあるのです。私も国民健康保険に入っていて、やはり市から通知がきたときに見て、受けないといけないのは分かって、自分の誕生日ぐらいかなと思っていても、忘れてしまうというケースがあります。コロナでここ3年間なかなか受けられそうになかったのですが、そういう意味では、この受診をしっかりすればですね、あと重症化する人に対してのメンテナンスとか、治療とか、そういうことの費用がおそらく削減でき、またそれが少なくなるということで、圧縮というのですか、上がらないような方策になるので、上流でしっかりこれを抑えるということをしていないといけないという思いを一つ持っております。特に受診を最大限に上げていくことが、病気を抑えるということは、必然的に分かっていることですので、これをなんとか本当に策定の話をして、どう取り組むかが非常に必要かなという思いを持っております。先般、キラリエ草津でフェスティバルがありまして、キラリエの2周年記念の、そのとき健康増進課の方が、出前講座で健康チェックをされておられました。確かに高齢者のほうに来て、たくさん並んでおられました。健康に関心あるし、またこういう近場でやるから、遠いところ行かなくてもできるのだな、と、こういう思いで来たのかなということを考えていまして、やはり行くというよりも、こちらから出向いて、例えば街のセンターでそういうことをやるという、こういうことでなんとかあの先手的にやらないと、待っていても比率があがらないかなと年々思っております。上流のそういうことを先手必勝でやる、こういう気構えでいなければこの数値が上がりにません。確かにずっと見ても目標達成しないと、いつまでもこういう結果では市としては恥ずかしいなという思いでおります。なんとかそういう点は、次の方向性の中に謳いながら、実践面でどうするかというのは議論すべきかな、というふうに思いを持っております。

事務局:しっかりと特定健診等を受けていただいて、病気等に早期に気づいていただくことで、本計画の目標の一つである医療費の適正化、被保険者の健康の増進につながるというふうに考えており

ます。そうした中で、なかなか特定健診の受診率が上がっていかないわけなのですが、コロナのお話がありましたが、令和2年の特定健診の受診率が33.7%まで一旦落ちた現状があります。その後できるだけ、皆様の方に周知していただくような形で、受診勧奨等を行っております。やはりできるだけ勧奨したときに皆さんが受けてみようと思っていただくような勧奨が必要であると、先ほどのホームページや SNS もありましたけれども、今年度も3回ほど受診勧奨を考えているのですが、今ちょうど、受診勧奨の校正等をさせていただいているのですが、委員から少しお話しいただいた、実際、特定健診を受けた方と受けない方で、医療費がこれだけ違うという国の数字とかもありますので、これだけ差が出て損していますとか、そういう形でしっかりと訴えかけて、できるだけ受診していただいて、受診の向上にあたっていく取り組みをしていきたいと思います。またキラリエのお話をいただきましたが、こちらの特定健診のほうは各医療機関に行っていただく個別健診と、市のほうである程度前もって予約を取って受けていただく集団健診の二つをさせて頂いております。その集団健診の中で、市のほうの健康の協定を結ばせていただいています保険会社さんとブースを出しまして、健康の啓発等、少し前から実施をしております、今年度も実施をする予定です。そこで、実際、健診を受けて来られた方はキラリエとかでも実施しますので、皆さん市民の方にもできるだけ啓発をして行きたいなというふうに思っております。また、まちづくりセンターのお話もいただきましたが、この前の議論の中にも、平日仕事されている人がお休みしか特定健診をなかなか受けられないとか、そういった声があったりとか、各地域のほうでもなかなか受診に行こうと思っていただけないというお声もあります。今回、できるだけ特定健診の受診しやすい環境を整えることが必要とありますので、現在の集団健診の方も一部の土曜日実施をしております。また、少し前から常盤のまちづくりセンターのほうでも集団健診の実施をしております、こちらのほうが特定健診の受診率を分析している中で、常盤のほうが、受診率が少し低い傾向がありましたので、また、集団健診の会場まで少し地理的にも遠いというところもありますので、常盤のまちづくりセンターの方でも集団健診を実施しているようなところでございます。いくつかお話をさせていただいたのですが、委員のご意見のとおりですね、できるだけ特定健診の受診率を上げていく取り組みが必要だと思いますので、できるだけ方策を、計画のほうに落とし込んでいけるような形で、今後計画の策定を進めてまいりたいと思います。ご意見ありがとうございました。

会 長:各市、集団で受けていただく機会を作ったりとか、そういうこともやっているのですが、なかなか受診率が上がらないという現状があるようなのです。情報がきちんと伝わっているのかなというところが一つありますし、若い年齢になってくると、やっぱり健康に関する関心が低いところが一番大きな要因にはなってくるのだらうと思います。実際に国民健康保険じゃなくて、企業さんのほうの社会保険のほうは、会社の健診というのを強制的にされますので、97%とか98%とかそういった受診率になります。しかもここ数年、会社の労働衛生の方も、以前は安全と衛生で、安全の面が強くて、衛生のほうがないがしろにされていたのですが、ここ数年衛生のほうはかなり厳しくなってきた、ちょっとでも異常値が出ていると受診をとということでかなり厳しく企業のほうから、社員さんのほうに言われると。去年は何も言われなかったが今年は必ず受診しろと言われるのですが、みたいな感じがあるのです。やっぱりその辺厳しく、企業さんのほうはなってきた、例えば国民健康保険のほうになるとこのような受診率ということで、こうするとどんどん被保険者の方々の健康格差

が広がっているような感じが起こってしまっているというのはよろしくないなという現状があります。ですので、強制力を持って健診を受けていただくようなことを考えないと、この草津の場で考えてもしょうがない話なのだろうと思うのですが、ある程度強制力をもって健診を受けていただくような制度にしないと駄目なのではないかと思います。社会保険並みの、90%ぐらい、みんな健診は必ず受けていると、健診受けてないと、保険証黙って出すわけにはいかないぐらいの感じを作っていくといけないのではないかと思います。今の状況ですと、ちょっとずつしか増えていかないような感じで、劇的には良くならないですね。

委員:全体に当方も、くまなくライフステージに関わっている、栄養問題ということで、関わらせてはいただいておりますが、先ほど健康推進員の井上委員さんおっしゃってくださった、この前はシアターなったり、薬剤師会さんのお薬のこととかというように、それぞれ専門の関わってくる職種が一つずつ市民教育をする場をくまなくやらせていただき、そこで関心を持っていただきながら、しっかり健康を支えるという、そのバックグラウンドを作りながら、自分の健康を見直す一つのきっかけ。これをくまなくやっていくことが、何かやっているよねと、そのときにちょっと意識して、この間でもフッ素の歯磨きをもらった、そうするとそこで一つの気づきがあって、口から食べるということを意識しないと、最期まで健康に生きていけないという一つのきっかけがあると、先ほどの先生おっしゃるように、その働き盛り、なかなか受診きっかけがないかもしれませんが、振り返るきっかけに私たちそれぞれ一職種ではなくて、そういったところに草津市ならではのイベントとか、滋賀県ならではの、私たち食文化にも関わっていますけど、そういったところでいたしますと、毎年私ども、草津イオンで食と健康展をやっております。そうすると、滋賀の食材を使う。それをしっかりと運営を通じてもっていく。そのときに来てくれる人には貧血の検査と血圧を測ってみる。そうするとちょっと聞いた時に、あっ、そうか、これをずっと続けているとこうなるのだ、ということのきっかけができると、受診のきっかけになるかなというように、その努力が、先ほどの受診率、数字は確かですから、そこに反映できるかということですが、これをやり続けたいといけないのかなということと、私も委員で話してもらっていますが、しっかりとデータ化はくまなくされていて、職種によって疾患も傾向を使っていっているのです。ということは、そこにワンポイント施策を持っていけばいけるよねというところまで来ています。私たちの役割で振り返れば、特定健診とか健診受けたところに、窓口で私たちがおらせてくださいと申し上げていると。というのは、また、今日引っかけたけどまだいいわ、というこのまたは多分ないのですね。ですので、そこで引っ掛ける仕組みを作って、10分20分がしんどいと思ったのだけど、そのときにワークショップでその時に入らせていただいておりますと、先ほどおっしゃったように、このデジタル化の中で、2、3日の食事の傾向は、デジタルの中で本当に簡単なアンケートでプッシュしていただくと傾向が読めるので、そこですぐにフィードバックができます。そういうところに入っていけるような、何かみんなシステムの中で動けるような、そういう形まですると見える化というか、少しでも数字が変わるのではないかなというふうに思っています。ですので、一つずつではなくて、私たちを利用してくださって、歯科衛生士会もすごく熱心ですし、ランナーのケアマネ会も時間を出してしていらっしゃるのと、先ほど離乳食のレストランでおっしゃった、生まれてしっかりと骨格ができるそこにもチームができております。それぞれのライフステージに手当ができる。そういうような仕組みを市ならできるので、これ国の大きな施策で言いますが、市ならできるといえるのをしっかりとこのプランの中に落とし込んでいただけたらいいのかなという

ことで、私たちがその役割を担っているということも含めまして、お話をさせていただきました。よろしくをお願いします。

事務局:いろいろな多職種で進めていくことで、行政だけではできませんので各医療機関の皆様、本日出席いただいている団体の皆様等の手を借りましてしっかり取り組みを進めて行きたいと考えております。ライフステージという言葉も出ましたが、特定健診で言いますと、やはり受診率というのが世代ごとに差が出ておまして、働き盛りの40代であるとか、50代の方というのは受診率が低い傾向であります。例えば令和3年度ですと、40代の男性の受診率が20.5%と、全体と比べるとかなり低いような数値も出ております。こういった方を対象に、取り組みを進めることで、受診率の向上等にもつながっていくと思っております。データを分析して、その課題に政策を打っていくことが有効であるというようなご意見だったりとか、先ほどから草津市ならではの計画にしていける必要があるというご意見もいただいております。この計画のほうは、国保の被保険者の方の、これからの医療費や医療のほう、分析を行いながら、草津市の被保険者の方の医療等に関する課題とかをしっかりと分析した上で、そこに対する施策を施行していくというような計画にもなっておりますので、ご意見いただいたように、しっかりと草津市の課題を分析した上で、その課題を克服するための草津市の施策を計画の中に落とし込んでいきたいというふうに思っております。また、見える化という話もありましたが、少し資料の中の説明で紹介させていただきましたが、特定保健指導のほうは見える化をするためにアウトカムの批評を令和6年度から導入される予定となっております。こちらにつきましては、これまで保健指導のほうアウトプットということで、どれだけ指導したかによってポイントがたまってきました。ある一定のポイントが貯まると、保健指導の実施の終了というような制度だったのですが、できるだけ効果を感じていただくために、質の高い保健指導を行うために、どれだけ保健指導を行ったことで、腹囲が減少したとか体重が減少したとかでポイントが付与されるようなアウトカムの強化が導入されております。こういったことで、実際の被保険者の方にとっても、できるだけ効果がわかるような形で計画のほうを施策に落とし込んでいきたいというふうに思っておりますので、またいろいろご意見を頂戴できたらなと思います。

委員:⑥番の医療費適正化を受けて重複・頻回受診者の訪問による生活指導を行うというところなのですが、大変労力のかかるすばらしい取り組みだと思っておりますが、こちらの健康くさつ21を読ませてもらおうと、平成30年度と令和元年度に2人しかやっておられなくて、令和2年から4年はやっておられないと思います。0人だと思っております。多分コロナの関係もあるのかなと思っておりますが、これからどうやって人数を増やしていくのかということと、それを大きな枠組みとしてここに載せているというのは、少しインパクトが少ない事業なのではないかなと思っておりますが、その辺はどう考えておられますか。それであつたらこちらのジェネリックの普及のほうを、適正な治療のところに載せたほうが大きな影響があるのではないかと考えております。

事務局:ご意見ありがとうございます。この事業自体の実施人数としては多くないのですが、重複受診者、頻回受診者、重複服薬者に対して、この事業、訪問による健康相談を行っているものになります。昨年度も指摘があったように、人数としては多くないですが、事業の前後でレセプトのほうを比

較致しますと、レセプトの件数や受診日数ともに減少しているという事実もございまして、受診方法や受診日数に変化が見られております。ただ今年度、県が電話による勧奨も進めていることがございますので、今年度は訪問や電話を通して、健康や病気に関して困っておられることや、生活習慣の改善等についてもお伺いをしながら、必要時長期間の眠剤等の重複服薬をされている方には、滋賀県薬剤師会さんの皆様のご協力もすでにいただいているのですが、薬剤師の先生方との連携を図りながら同行訪問いただくことを検討して、健康に対する不安の解消につながるようにアプローチできればと考えております。

会 長:重複の処方に関してなのですが、湖南市のほうが、薬剤師会とか医師会と連携してかなり積極的に重複処方をなくすことをやっていると思います。栗東市のほうでも後期高齢者に関してそれを進めておられるのですが、草津市のほうでそのあたりは何か計画ございますか。

事務局:ありがとうございます。今、ご意見いただいたように、具体的に草津市としてこうしていこうというところがまだでていないのですが、今、委員や会長からいただいたことを踏まえて、今後事業自体を見直して、検討していきたいと思っております。

会 長:結構、高齢者の方でお薬が重複しているようなケースとか、非常にたくさんの薬を調整しなければならぬようなケースというのがかなり出てきております。いろいろな市、町、全国的にそういう活動をされていると思います。また草津でもそういうところご検討いただくことで、これは結構医療費を削減するのに資するものになると思いますので、ご検討いただければと思います。

会 長:今のやり方も、栗東市は薬剤師会が中心でやっていただく計画になっています。なので、主にそういった形になると思います

6. その他

事務局:第2回目草津市健康づくり推進協議会の開催を9月13日水曜日に行う旨を説明

7. 閉会

以 上